

地域包括ケアシステムでの 緩和ケア&リハビリテーション

近藤内科病院 院是

私たちは医療技術と心を磨き、
患者の皆様が常に最良の医療が受けられる
ように全力を尽くします

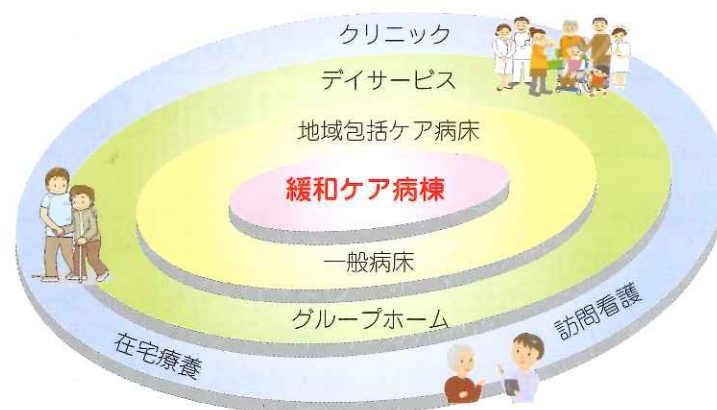
- ・命の質（QOL）を高める医療
- ・患者、家族の皆様が安心できる医療
- ・職員が楽しく働ける医療
- ・社会の進歩に貢献できる医療

地域包括ケアシステムでの緩和ケアと リハビリテーションの展開

地域包括ケアシステム

「地域包括ケアシステム」は、高齢者の尊厳の保持と自立支援の目的のもとで、皆が住み慣れた地域で人生の最期まで暮らせる事が出来るようにすることを目的にし我が国の2030年の超高齢化社会に対応するシステムです。当院は、このシステムの中で緩和ケアとリハビリテーションを融合させることで質の高いケアを提供し、患者さんのQOLの向上を図ることを運営方針にしています。

13年間の緩和ケア病棟の経験を活かして、今後は点（病棟）から面（地域）に緩和ケアを広げる診療活動を行います。



地域包括ケア病床の新設

<このような方を対象としています>

①急性期病棟での治療後、退院を目指したリハビリが必要な方、②自宅や施設で療養中に肺炎や発熱、脱水、骨折、けがなど重症度の観点から急性期病棟よりもリハビリを重視した入院加療が望ましい方、③自宅、施設等で療養中の方で誤嚥予防や日常生活動作（ADL）向上のためのリハビリテーションが必要な方達の入院をサポートします。

徳島がんリハビリテーションネットワーク



リハビリテーション部

当院は緩和ケア病棟（ホスピス徳島）を開設して13年目になりました。今後の10年の目標は緩和ケアが点（緩和ケア病棟）から面（徳島市・小松島市）に広がるネットワークを目指しております。がんリハビリテーションをツールの一つとして今度その第一歩を立ち上げます。

●スタッフ：左から
前川聡兵（理学療法士）、部長 尾崎福富（理学療法士）、島田夏彦（鍼灸師）
安堵尋美（理学療法士）、清水智佳（臨時 理学療法士）

リンパ浮腫セラピスト 尾崎 福富

私たち近藤内科病院のリハビリテーションチームは「がんのリハビリテーション」を可能とし「リンパアプローチ」を中心に「三つの基本理念」を掲げ患者様と家族を含めた地域社会に貢献します。

「がんのリハビリテーション」とは、がんによって手術や放射線治療、また抗がん剤を使った化学療法などの治療中の方および家族の方々に対し、身体的、精神的だけでなく福祉用具や社会資源をフルに活用し、さらにはリハビリロボットなど様々な手段を駆使することによって家人の待つ自宅に再び帰れること（家庭復帰）、友人が待つ仕事に再び就けること（職場復帰）、隣人が待つ地域で再び住めること（社会復帰）などを可能な限り援助させていただくことが目標の職務です。

「リンパアプローチ」とは、医学的根拠に基づいたメディカルなリンパドレナージにより浮腫みだけ

でなく痛みや痺れを和らげる手技のことで、体のリンパの流れを活性化することにより病気に対する抵抗力や免疫力を高めます。またリンパ浮腫専用のストッキングやスリーブ（弾性着衣）だけでなく、静脈や内臓から起こる様々な腫れに対応できる包帯なども御用意しています。さらに電気、超音波、レーザーなどを用いた物理療法によって様々な症状を緩和します。

- 「基本理念となる三つの手」とは、
- ①暖かな手のぬくもりと愛情を込めて『手当て』させて頂きます。
 - ②日々精進し全力を持って皆様の復帰を『手助け』させて頂きます。
 - ③他のスタッフや地域と密に連携し最高の『手立て』を提供させて頂きます。

鍼灸師 島田 夏彦

はじめまして。3月から緩和ケア病棟でリハビリを担当することになりました、鍼灸師の島田です。最近、目にする機会が増えた鍼灸という文字ですが、皆さんは鍼灸治療を受けられたことがあるでしょうか。

鍼灸治療とは、鍼術と灸術の総称になります。鍼術は鍼を用いて身体表面の一定部位に、接触または穿刺刺入し、生体に一定の機械的刺激を与え、灸術はもぐさを燃焼させ、またはこれに代わる物質を用いて、身体表面の一定部位に温熱的刺激を与えます。これらの機械的刺激や温熱的刺激によって起こる効果的な生体反応を利用し、生活機能の変調を矯正し、保健および疾病の予防または治療に広く応用する施術です。世界では欧米を中心に、すでに緩和ケアに鍼灸を取り入れています。近年、日本でも緩和ケアチームに鍼灸師が加わるケースが増えてきま

した。緩和ケアを行う鍼灸師は、抗がん剤治療による副作用の軽減、QOL（生活の質）の改善、免疫力の向上などを目的に施術を行います。

緩和ケアにおける鍼灸治療は、以下の点で効果が期待できると考えられます。①抗がん剤治療による副作用の痛みやしびれ、むくみの緩和②リラックスするなど精神状態に対する効果③闘病生活などの長期臥床による筋肉痛の緩和④呼吸困難等の終末期における苦痛の緩和などです。また、鍼灸治療は副作用が少なく、手術後や抗がん剤治療などの他の治療法との併用もでき、また病期の進行状態にかかわらず発病から終末期まで治療が可能です。

鍼灸治療は医師の許可の元で施術を行いますが、鍼灸治療についてのご要望やご質問がございましたら、お気軽にご相談ください。

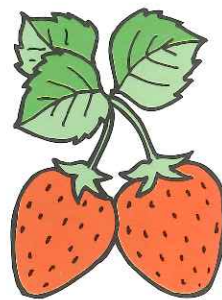
苺大福春うらら

清水 智佳

12月頃になると、和菓子店だけでなくコンビニやスーパーの店頭で沢山並ぶのが苺大福です。その苺大福について歓迎会で熱く話していると、ある日の勤務後、院長が種々の苺大福の食べ比べをするために買ってきました。徳島県内ではたいそう有名な3軒の老舗和菓子店の苺大福を味わうという、とても粋な計らいでした。どれもさすが老舗！と唸りたくなるほどの逸品でしたが、ひと口に苺大福といえど、その特徴はお店によって全く違います。使用するイチゴは主役なので、当然出来栄の核となります。その主役を十分に活かすため、包み込む餡や羽二重餅は重責を担っています。白餡か黒餡、粒餡か漉し餡、イチゴの甘みと酸味を引き立てるベストな量。羽二重餅は包み方、厚みでお店の個性を演出します。私個人的には、酸味のきいたイチゴを白の漉し餡、薄めの羽二重餅で包んだ苺大福が好きなのですが、みなさんはいかがでしょう？苺大福は6月頃まで販売しているお店もありますが、主役の「旬」を考えると1月から4月頃までが最も美味しいのではないかと思います。

最近では苺大福を真似て色々な果物を大福にする

ことが流行っています。巨峰、マスカット、スイカ、洋梨、八朔などなど。その時期のものを工夫して美味しく食べるという、日本人の探究心と向上心は本当に素晴らしい。そんなことを考えながら、毎週のように自動車で40分かけてお目当ての苺大福を買いに行く私。柔らかであたたかな陽射しが、つい食べ過ぎる私のことも許してくれているように感じる最高の季節です。



●ももいちご

この10年間、佐那河内村の目下農園の御好意により5月連休後に職員、ボランティア・デイサービスの利用者・家族の皆さんといっしょに毎年ももいちご刈りに出かけています。

平成27年度第1回がんの

リハビリテーション研修に参加して

尾崎 福富

2015年4月4日(土)と5日(日)の2日間、東京都清瀬市にある国立看護大学校へ院長・田村看護師・前川理学療法士および小生の4人で研修に行きました。大学の正門から講堂までのキャンパスには桜が満開で、私たちの新しい取り組みであるがんリハビリテーション(以下がんリハ)の門出を祝福しているように感じました。

研修会では「がんリハ」の概要から実際について、医師・看護師および作業療法士、言語聴覚士、理学療法士と多職種の方からの講演を聞き、改めてチームアプローチの重要性を実感させられました。患者さんの多彩な希望に対して、スタッフ一人ひとりが何を担うことができるのかを話し合い、患者さんのQOLを向上させる目的に向かって歩んでいくことの大切さを痛感しました。

さて当院を含めて徳島がんリハの現状は如何でしょうか。他県に比べて「がんリハ」は遅れています。そういう中、当院の緩和ケア病棟を中心に地域がん拠点病院や24時間対応診療所、訪問看護および介護ステーション、老人ホームおよびグループホーム等と幅広く連携することが必要です。

この連携により今後徳島県での「がんリハ」を充実させ、がん患者さんのQOLの向上を図ります。院内でのがんリハカンファレンスの充実を図り、スタッフは進出している医療機関での研修に積極的に出かけます。院外においては「がんリハビリテーションネットワーク研修会」を定期的に開催して、県内外の各施設と連携し互いにレベルアップのために勉強できるようにしたいと思っています。

地域連携室



MSW 社会福祉士
四方研也

新しく開設しました「地域包括ケア病床」についてご紹介いたします。この病床は、患者さんが住み慣れた地域での暮らしを再開、継続出来ることを目的にしています。そのために、治療後のリハビリ・在宅復帰支援を行うほか、在宅・施設療養されている方の増悪時の対応やリハビリも行き安定した療養生活を支援する役割を果たします。具体的には入院後、患者さんの状態に応じて在宅復帰に向けての支援を計画し、医師・看護師・薬剤師・リハビリスタッフ・管理栄養士・ソーシャルワーカー等の多職種が連携し、必要に応じて在宅医・ケアマネージャーとも連携を図り、医療と暮らしの両面からサポートします。この病床があることで、患者さんご家族が少しでも安心して暮らすことが出来るようになればと思います。

疑問やお悩みのことがありましたら、地域連携室までお気軽にお声かけください。

電話：088-663-0070、携帯：090-4972-2982

新しいスタッフ紹介



看護部 市原睦代、近藤裕美、松下千香、市原明子、前畑加代子、井内奈那、岡部久子

薬剤部 岩根晶子

～ Information ～

● 第一回徳島がんリハビリテーションネットワーク研究会

日時 平成27年7月18日(土) 19時～21時30分

場所 徳島市医師会 4階大会議場

講演 ①「がんリハビリテーションの理論と実際」 埼玉医科大学保健学科 教授 高倉保幸先生
②「徳島県でのがんリハビリテーションの現状」 徳島大学病院、近藤内科病院、徳島赤十字病院から症例報告

主催 NPO法人ホスピス徳島がん基金・近藤内科病院(088-663-0070)

共催 徳島大学病院、徳島赤十字病院、徳島市民病院、徳島県立中央病院

● フルートとピアノのコンサート

日時 平成27年6月29日(金) 14時から

場所 近藤内科病院1階緩和ケアラウンジ

フルート 大江浩志様

皆様からのご意見をお待ちしております

わかば通信に関するご意見・ご感想をお待ちしております。

本広報誌をより良くするために皆様からの率直なご意見をお寄せ下さい。

[近藤内科病院 広報委員会]